

# 郷土「うぶすな」の文化を誇りに

～町の教育の営みを通して～

安堵町教育委員会事務局

## 1. はじめに

安堵町は、奈良県の北西部に位置し、町西側には富雄川、南側には大和川、中央に岡崎川が流れ、奈良盆地の河川のほとんどがこの付近で合流する最も低い田園地帯が広がる地域です。古代から飛鳥と難波を結ぶ水上交通の要衝にあり、陸路も聖徳太子が飛鳥と斑鳩宮を行き来した「太子道」の残る蓄積された文化やのどかな人々の暮らしが息づくまちです。

また、奈良県再設置運動に中心的な役割を果たした今村勤三氏をはじめ、陶芸界で日本最初の人間国宝、富本憲吉氏（標題の「うぶすな」は憲吉が生まれ育った安堵の郷をそう表した）を輩出しています。さらに、日本で初めてBCGの人体接種を行い、その成果がWHOに認められ、結核予防法にBCG接種が採用され、今では一般的となっているX線間接撮影装置を載せた検診車（レントゲン検診車）開発の父である今村荒男氏（元大阪大学第5代総長、現奈良県立医科大学初代校長）を輩出し、豊かな歴史や文化を育む風土に恵まれた町でもあります。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためここ数年中断していた安堵町文化祭での講演会を今村勤三と奈良県の発展をテーマにした「奈良県誕生記念トークイベント」として再開することができました。

今後も町の文化財を掘り起こし、教育においてもこうした郷土の文化を誇りとし、そこで育った自分、そしてなかま、生まれ育ったふるさと「うぶすな」を大切に逞しく成長する子どもの育成を目指していきます。

## 2. 教育目標

郷土を誇りに思い、自分に自信をもち、よりよく伸びようとする人間の育成

さまざまな体験活動を取り入れ、教育活動を工夫し、自分を肯定的にとらえる気持ちを高め、自分に自信を持ち、児童・生徒の一人ひとりのもつ能力や個性を十分に発揮できるようさまざまな事業に取り組むことで、郷土を愛し、自分を高め、人としてよりよく伸びていこうとする意欲に満ちた人間の育成をめざします。

- 児童生徒自立支援事業
- 学校と連携した協働活動の充実
- 読書活動の充実
- 教職員研修の充実
- 学校種間の連携
- ICTの活用による新たな学びの推進

## 3. 教育委員会の様々な取組

### ① 広島大仏と修学旅行

安堵町の極楽寺に安置されている大仏が、戦後まもなく広島市の原爆ドームの近くであって、原爆の犠牲者を弔う人々のよりどころとなって親しまれていた「広島大仏」であることが判明したのが平成23年（2011年）の事でした。安堵小学校では、6年生が修学旅行で広島を訪れる際、この縁を大切にしながら平和学習に取り組みます。地域のお話サークルの方々が「大仏のおひっこし」という創



極楽寺の広島大仏見学

作物語として紡ぎおこされた広島大仏の縁起を映像紙芝居として鑑賞します。そして、極楽寺を訪れ、広島大仏を目の当たりに見学します。修学旅行では、世界遺産の原爆ドームはもちろんのこと、資料館を見学したり、語り部の話に耳を傾けたり定番のコースもめぐりますが、安堵小学校の子どもたちは、市街地から少し足を伸ばして五日市にある光禅寺も訪れます。ここは、広島大仏が平和記念公園の整備に伴い堂内に移され一時的に安置されていたという寺。子どもたちは、安堵町産の藺草と菜種油の灯芯を奉納し、この寺まつわる戦争体験談を伺います。因みに藺草から灯りの燃え芯となる「ズイ」の部分（灯芯）を取り出す「灯芯引き」は、安堵町で江戸時代から行われてきた技術で、平成27年には安堵町の指定文化財となっています。このように安堵小学校の修学旅行にむけた平和学習は地域とのつながりを大切にした郷土学習でもあります。

コロナ禍でここ数年、修学旅行は、行先の変更を余儀なくされていましたが、本年度ようやく広島への修学旅行を復活させることができました。

## ② 茶道教室 <安堵町歴史民俗資料館内茶室「杏菴」>

江戸時代末の医師・文人である今村文吾氏や奈良県の再設置に尽力した今村勤三氏、結核予防の基礎を構築した今村荒男氏の生家を活用した安堵町歴史民俗資料館では、平成26年度に彼らと関わりの深い施設内の茶室を「杏菴」と命名しました。そして翌平成27年度からは「こども茶道教室」を実施しています。茶室「杏菴」が地域の歴史とゆかりのある場であることを知ってもらうとともに、日本の伝統文化である茶道を通して、豊かな心を育む契機とすることを目的とした事業です。

子どもたちがこの教室を通して、茶道の心得である心を和らげ、また互いに敬う気持ちを身につけ、それを日常生活へも活かせることを期待し、実施しています。



こども茶道教室

この教室には町内外の小中学校から児童・生徒が参加し、挨拶などの作法やお茶のいただき方、茶室に入るところから退室までの一連の所作やお茶の点て方を習います。初めての子どもたちも、一から丁寧に指導を受けながら茶道について楽しく学べる貴重な場となっています。

## ③ あんどかるた



近年、地元の民生児童員の方々が中心となりお話サークルや小学校の教員も協力して郷土かるたができました。大判かるたは体育館のイベントでも使用できます。小型のかるたは各教室にも置かれ子どもたちが日常的に郷土に親しむアイテムとなっています。



## 4. おわりに

さまざまな行事がコロナ禍前のように実施できるようになってきました。安堵町の教育目標にある「郷土を誇りに思い・・・」に関わる教育委員会の事業としての郷土学習の取り組みの一端を紹介し、今後も、「歴史と文化の香るまち」・「小さくてもキラリ光る交流のまち あんど」として、町の宝を町民とともに末永く大切にし、子どもたちの将来、後世に伝えていきます。